

図書館ニュース

小牛田農林高等学校図書館

第6号

令和8年8月27日

校内ビブリオバトル 結果発表

7/13（月）、図書委員会主催の校内ビブリオバトルを実施しました。

みなさんが持ち寄った愛読書の中には、読み込んでボロボロになったものもあり、それぞれの本に対する熱い思いがぶつかる時間となりました。

ビブリオバトルとは・・・「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」をキャッチコピーに、全国に広がっている本の紹介コミュニケーションゲーム。

公式ルール

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に1人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う。
4. 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

今回は、「ミニ・ビブリオバトル」
として3分で実施しました。

今回は、3つのグループに分かれて実施しました。結果は下記のとおりです。

「*」がついている本は図書館で借りられます。是非読んでみてください！



チャンプ本

『それでもあの日、ふたりの恋は永遠だと思ってた』

スターツ出版/編 スターツ出版



チャンプ本

* 『三日間の幸福』 三秋縊/著 KADOKAWA

『ナイチンゲール』 坂本コウ/漫画 日本赤十字社/監修 ポプラ社

* 『舟を編む』 三浦しをん/著 光文社文庫



チャンプ本

* 『8番出口』 川村元気/著 KOTAKE CREATE/原作ゲーム 水鈴社

* 『変な家 2』 雨穴/著 飛鳥新社

* 『君の名は。』 新海誠/著 KADOKAWA



チャンプ本

* 『奇面館の殺人』 綾辻行人/著 講談社

『妖異幻怪』 夢枕獏 他/著 文藝春秋

* 『変な家』 雨穴/著 飛鳥新社

～事後アンケートより～

- ・一緒にやった先輩たちがやさしかったのでよかったです。楽しかったです。
- ・自分が普段読まないジャンルの本を知ることができました。自分が好きな本を紹介できてうれしかったです！ますます“本”が好きになりました。
- ・初めてやりましたが、自分の好きな本を相手におすすめできるのは、なかなか楽しかったです。
- ・本はちゃんと用意しよう。
- ・中学校の授業でやったことがあったので、慣れていました。初めて紹介する本だったので、少し難しかったです。
- ・自分が読んだことがない本を知ることができてよかったです。
- ・意外とおもしろくて、メモを見てもいいから気軽にできた。
- ・自分が触れることがなかった本のことを知り、世界が広がった気がした。
- ・いざみんなの前で発表をしようと思っていたより言えなかったこともあった。

当日参加できなかった図書委員のおすすめ本を紹介します。

＊『方舟』 タ木春央/著 講談社 主人公は友人らと共に山奥の地下建築に閉じ込められてしまった。地下水が流入し始める上、殺人まで起きてしまう。そして、だれか一人を犠牲にすれば脱出できると判明する。生贄には、殺人の犯人になるべきだ。地下建築からの脱出を目指すミステリー小説です。全く疑わなかったことで全てがひっくりかえる展開が面白いので、読んでみてください。	『世界 99』 村田沙耶香/著 集英社 この本の主人公は如月天子といい、彼女は「安全」と「楽ちん」だけを指標にキャラクターを使い分け、日々を生き延びてきました。この世界にはピョコルンという生き物がいて、当初はペットに過ぎない存在だったがやがて技術が進み、ピョコルンがとある能力を備えたことで、世界は様相を変え始める。そんな、性格のない「からっぽ」の空子の一生と人間社会の終着点を描いた作品となっています。
『店番のスピス』 遊ハチ/著 スクウェア・エニックス 主人公の男とコンビニにいるサカバンバスピスの「ぴすちゃん」と店長たちのとてもゆるく面白いコメディマンガです。	＊『すべての人にいい人である必要なんてない』 キムユウン/著 西野明奈/訳 かんき出版 周りの人に嫌われないように無理をしたり、いつも「いい人」でいようとしたりする必要はないと教えてくれる本です。
『転生したらスライムだった件』 伏瀬/著 マイクロマガジン社 異世界転生をテーマにしたファンタジー作品。主人公が仲間とともに国づくりやバトルを繰り広げる。異世界作品に初めて触れる人におすすめの作品。	＊『探偵はもう、死んでいる。』 二語十/著 KADOKAWA 名探偵の助手が、名探偵の死の真相や、名探偵の残した謎を解決していくミステリー、異能バトルの作品です。
『ダレカレ』 篠原美季/著 講談社 ある日突然、主人公の父親が知らない人になってしまうところから始まるミステリー小説です。「本当の父親はどこへ行ったのか」「誰を信じればいいのか」と、最後まで続きが気になって一気に読めます。予想外の展開と、家族の絆について考えさせられるおすすめの一冊です。	＊『銀河の図書室』 名取佐和子/著 実業之日本社 図書委員の男の子と新入生の女の子の「銀河鉄道」をテーマにした物語です。イーハトー部、ビブリオバトルなどの活動を通して少しずつ展開が広がっていくところが見どころです。